

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

西暦 2017 年 12 月 6 日作成

研究課題名	ヒト脳における G タンパク質関連型受容体 GPR143 の観察研究
研究の対象	本病院病理診断科に保管されている、ヒト剖検脳 3～5 例程度
研究目的 ・方法	<p>研究の目的：</p> <p>私達は、1986 年以来、ドパミンの前駆体 L-ドーパ（ドーパ）が神経伝達物質であることを提唱して来ました。長らくその受容体は未同定でしたが、最近、ラットで GPR143 という分子が、ドーパ受容体として機能することを証明しました。ドーパは、パーキンソン病の特効薬ですが、長年使っていると効果が消失することや、不快な副作用が出るなど、仕組みがよくわかっていません。本研究の目的は、こうした課題を解決するため、GPR143 が、ヒト脳内において発現するかどうか、発現するとすれば、どのような脳部位に発現するかを解析することにあります。</p> <p>研究の方法：</p> <p>新たにヒト抗 GPR143 抗体を作製し、これを用いて、ヒト脳における GPR143 の発現とその分布を解析します。抗ヒト GPR143 の C 末端領域の抗原性が比較的高いと思われるペプチド配列に対するウサギポリクローナル抗体の作製を試みます。出来上がった抗体を用いてヒト剖検脳において染色像が認められるかどうかを調べ、見られた場合、その陽性像が実際に、GPR143 を認識した結果なのかどうかを、上記の抗原ペプチドの過剰量適用によって消失するかどうかによって判断することとします。</p>
研究期間	西暦 2017 年 12 月 21 日(承認日) ～ 西暦 2018 年 12 月 20 日（1 年間）
研究に用いる 試料・情報 の種類	2010 年から 2014 年までに収集・保管されている検体のうち、生前の臨床像が把握されており、剖検脳が適切に管理・保管されているものを利用します。具体的な場所としては脳の前頭葉、側頭葉、後頭葉皮質、嗅内野、中脳、綿糸体等における組織ブロックおよび組織切片などを使用します。
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市立大学医学部 分子薬理神経生物学 （研究責任者）五嶋 良郎

電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-350-3363